



平成 16 年 9 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社 ブロッコリー
代表者名 代表取締役 木谷 高明
(登録銘柄 コード番号 2706)
問合せ先 取締役財務経理部長
興津 吉繁
(TEL . 03 5946 2824)

平成 17 年 2 月期中間 (連結・単独) 業績予想との差異
及び通期 (連結・単独) 業績予想の修正に関するお知らせ

平成 17 年 2 月期(平成 16 年 3 月 1 日~平成 17 年 2 月 29 日)の業績予想について、平成 16 年 4 月 19 日付当社「平成 16 年 2 月期決算短信 (連結) 」及び同日付当社「平成 16 年 2 月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1 . 平成 17 年 2 月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期(平成 16 年 3 月 1 日~平成 16 年 8 月 31 日)

(単位：百万円)

| | 売 上 高 | 経 常 利 益 | 中 間 純 利 益 |
|---------------|-------|---------|-----------|
| 前回予想 (A) | 4,329 | 57 | 87 |
| 今回修正 (B) | 4,100 | 247 | 258 |
| 増減額 (B - A) | 229 | 190 | 171 |
| 増減率 | 5.3% | 333.3% | 196.6% |

(2) 通期(平成 16 年 3 月 1 日~平成 17 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

| | 売 上 高 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 |
|---------------|-------|---------|-----------|
| 前回予想 (A) | 8,915 | 110 | 50 |
| 今回修正 (B) | 8,880 | 6 | 0 |
| 増減額 (B - A) | 35 | 104 | 50 |
| 増減率 | 0.4% | 94.5% | 100.0% |

(3) ご参考：前期の実績(平成 15 年 3 月 1 日~平成 16 年 2 月 29 日)

(単位：百万円)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|---------------|-------|------|-------|
| 中間期(3/1~8/31) | | | |
| 通期(3/1~2/29) | 8,358 | 739 | 1,859 |

(注)当中間期より中間連結財務諸表を作成しております。従って、前期実績(平成 15 年 8 月期)については記載しておりません。ただし、以下の修正の理由において前期比較可能な項目については極力その内容を記載しております。

2. 平成 17 年 2 月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期(平成 16 年 3 月 1 日~平成 16 年 8 月 31 日)

(単位：百万円)

| | 売上高 | 経常利益 | 中間純利益 |
|----------|-------|--------|--------|
| 前回予想(A) | 4,219 | 57 | 87 |
| 今回修正(B) | 4,006 | 246 | 256 |
| 増減額(B-A) | 213 | 189 | 169 |
| 増減率 | 5.0% | 331.6% | 194.3% |

(2) 通期(平成 16 年 3 月 1 日~平成 17 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----------|-------|-------|-------|
| 前回予想(A) | 8,695 | 110 | 50 |
| 今回修正(B) | 8,650 | 10 | 6 |
| 増減額(B-A) | 45 | 100 | 44 |
| 増減率 | 0.5% | 90.9% | 88.0% |

(3) ご参考：前期の実績(平成 15 年 3 月 1 日~平成 16 年 2 月 29 日)

(単位：百万円)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|---------------|-------|------|-------|
| 中間期(3/1~8/31) | 4,007 | 518 | 1,843 |
| 通期(3/1~2/29) | 8,229 | 725 | 1,832 |

3. 中間期修正の理由

(1) 売上高

連結売上高は、計画に対しては 229 百万円の見込みであります。内、主要な分野である国内店舗と国内本社売上の状況は次のとおりであります。国内店舗売上高は、秋葉原地区が前年同期比 114%、既存店舗が前年同期比 104%を達成し、これに新店舗と閉鎖店舗・縮小店舗の差額 124 百万円を差し引いても店舗全体で前年同期比 102%の 2,874 百万円を確保で

きました。しかしながら、計画に対しては当期強化した書籍・コミックスが順調に拡大したものの、当初想定していなかったDVD販売の減少と7月の猛暑による売上減少が影響し100百万円の未達となりました。

一方、国内本社売上高（主にコンテンツ売上高）は、通販及び音楽CD等一部健闘したものもありますが、ゲームソフトの発売時期の下期以降へのズレ込み等収益を期待していた製品・サービス売上の低迷により、前年同期比95%の1,132百万円（計画比113百万円）に留まることになりました。

（2）経常利益・中間純利益

売上高の不足と店舗間競争の激化に伴う値下げ販売・アニメ償却負担・棚卸資産評価損増加等による売上総利益率の低下により売上総利益が低迷したこと、また販売費・一般管理費が前年同期比88%（単体ベース）とリストラ策により下がったもののイベント経費の増加等によって連結経常損失が当初計画の57百万円から247百万円に膨らむ見込みであります。つれて、連結中間純損失も258百万円となる見込であります。

4. 通期修正の理由

当期は、基本的には、次期以降の大きなタイトル展開のための準備期であります。下期は中間期の出遅れの要因であった自社コンテンツの発売に注力し、厳しい経営環境下ではありますが店舗売上及び本社売上を充実させ、以下のとおりの業績を見込んでおります。

（1）売上高

売上高は上期の遅れを下期で取り戻すべく、店舗売上に関してはDVD売上減少を構造的要因と受け止め、この減少分を書籍・コミックスの増強策でカバーする方針であります。本社売上については、特に自社コンテンツについて12月から2月の商戦に向け定番のカードゲームに加え、出版、音楽、ゲームソフト製品を効果的に配置し、店舗のほか、国内卸売・通信販売さらに海外売上へと販売経路を拡充してまいります。

主要部門の国内店舗売上高は前期比104%、国内本社売上高は前期比107%で見積もっております。また、連結子会社においては大きな変動は見込んでおりません。

（2）経常利益・当期純利益

下期の売上高増強による収益増に対し、引き続きアニメ償却負担が残ること、消費者の嗜好変化による棚卸資産の陳腐化リスクを考慮せざるを得ないこと、また次期施策の仕込みに対する経費増加を織り込んで、通期経常利益は6百万円、当期純利益ゼロの見込みであります。

以上